

獣医師の目

【牛】宮本 翔也

アカバネ病

集団発生を防ぐ

異常産ワクチンの接種

「異常産ワクチン」は、アカバネウイルスなどの異常産を引き起こすウイルスに対するワクチンです。先日、異常産ワクチンの接種中、「アカバネは過去の病気なのに、なぜワクチンを打つ必要があるの」と農家さんから質問を受けました。今回はその疑問に回答したいと思います。

アカバネ病による異常産は、過去に数千頭規模の集団発生が周期的にありました。近年では、国内の発生頭数は大きく減少しています。また、アカバネ病を引き起こすウイルスはヌカカによって媒介され、ウイルスを保有したヌカカは、夏季に発生する季節風により海外から国内に侵入すると考えられています。

日本で異常産の発生が減少したのは、ウイルスが侵入しなくなったためでしょう。

か。答えはノーです。実際、抗体調査によってウイルスの侵入は毎年監視されています。ウイルス性の異常産の発生が減少した要因は、ワクチンが広く普及したことが大きいと考えられます。

ワクチン接種を地域全体で中止した場合、ウイルスのまん延を制御できず、異常産の集団発生が再び起こる可能性は否定できません。異常産ワクチンは決して安価ではありませんが、農場のため、地域のために接種を続けることをお勧めします。

（NOSAI岡山 北部基幹家畜診療所技師）



ヌカカは体長が1〜1.5ミリほどの小型昆虫